

## 甲賀市レッドリスト 2022 陸産貝類 概要

### ◇ 甲賀市の陸産貝類（陸産貝類相および地理分布の特徴、解明度）

- ・ 甲賀市の陸産貝類について整理された文献はないが、みなくち子どもの森自然館では、市内各地で採集された陸産貝類の標本を保管している。また、滋賀県内の基礎調査(1998～2000年)が行われており、甲賀地域の陸産貝類に関するデータが存在する(大谷ら、未発表)。
- ・ 甲賀市には、東部に鈴鹿山脈、西部に信楽山地、中央部に広い丘陵地帯があり、地上付近に生息する陸産貝類は、そうした地形と地史、植生などに影響を受けて分布すると考えられる。
- ・ 市内の土山地域から甲賀地域にかけての鈴鹿山脈の大半は花崗岩からなり、山裾には泥岩(頁岩)の地域が広がる。また、所々に石灰岩の小さな岩脈の露出が確認される。深い溪谷には大型の(イブキ)クロイワマイマイ、ミヤマヒダリマキマイマイなどが見られ、石灰岩の露頭にはフトキセルガイモドキ、クチマガリスナガイが確認され、オオギセル、ハゲギセル、コンボウギセル、シリオレギセル、イセノナミマイマイも記録された。
- ・ 信楽山地の多くも花崗岩からなる。大型の陸産貝類の密度は低いが、溪谷沿いの樹林や社寺林には、オオギセル、ギュリキマイマイなどが見られた。また、京都府や大津市と境界の西部には泥岩(頁岩)の地域があり、ツムガタギセル、ヤマタニシなども見られる。
- ・ 市内中央部の丘陵地帯は古琵琶湖の粘土層からなり、雑木林、草地、水田からなる里山の景観が広がる。近年は住宅地や工業団地が各地で造成されており、陸産貝類の生息する樹林が孤立している。丘陵地や社寺、河川沿いの崖地の樹林に、クロイワマイマイ(チビクロイワマイマイ、ミノマイマイの型を含む)、ナミマイマイなどが見られ、一部にはアズキガイ、クチマガリマイマイ、ヤマクルマガイ、ビロウドマイマイ類が生息する場所もある。
- ・ オオケマイマイ、クチベニマイマイ、コベソマイマイなどは上記の3地域に広く分布域が存在する。
- ・ 野洲川の河川敷にあるヨシ原や周辺の水田、水路付近には、湿潤域(常に水域の影響を受ける湿地環境)に生息する小型の陸貝(ナガオカモノアラガイ、ナタネキバサナギガイなど)も発見されている。
- ・ 近年の甲賀市の陸産貝類の生息に対する危機として、上記の丘陵地帯を中心に里山環境の急激な変化があげられる。具体的な事例を2つあげると、1つ目は「山麓や丘陵部の農地周辺の法面・石垣、農村部の民家裏の土手などの環境」の急激な変化がある。特にマイマイ類(クロイワマイマイ、ギュリキマイマイ、ナミマイマイ、クチベニマイマイ、コベソマイマイ)にとって、「昔」の農地の周囲に見られた法面や石垣の環境は、生息に

適した空間を提供し、雑草や灌木等が適度な日陰や餌を提供していたと考えられる。近年に実施された圃場整備や農地転用（宅地化、太陽光発電所へ）に加えて、法面の管理放棄による植生遷移（暗いヤブ化・樹林化）が進行し、マイマイ類にとって適度な環境が消失し、これらの減少の一因になったと考えられる。2 つ目は、シイタケの原木栽培における環境変化がある。「昔」は、シイタケが出にくくなった古いほだ木は、ケハダビロウドマイマイやキセルガイ類など各種の陸産貝類に対し、餌と生息環境を提供していた。また、原木栽培による林内の手入れにより、ササ等の下草が適度に除去された林床空間が形成された。近年の里山における自然環境下のシイタケ原木栽培の減少や施設栽培への転換は、陸産貝類の減少要因になったと考えられる。

#### ◇ 甲賀市レッドリスト 2022 陸産貝類 掲載方針

- ・ 甲賀市レッドリストでは、市内に分布する陸産貝類を評価対象とした。微小な種については、調査が不十分で、分類的な問題が多く残るグループもあるが、種の特定に問題がないものについては扱う方針とした。
- ・ 2017 年のレッドリスト策定後、陸産貝類の調査は単発的にしか実施されておらず、面的な調査や経年変化について、十分に把握できていない。しかし、新たな情報から生息状況が判明してきた種もあり、そうした情報を基準に 2022 レッドリストを作成した。
- ・ カテゴリー定義：「絶滅種」は過去に生息したが、現在は見られない種。「絶滅危惧種」は、生息場所が若干カ所（2・3カ所）以下、あるいは極限された（狭い1地域など）分布域。「絶滅危機増大種」は生息場所がかなり少ない、あるいは限定された地域のみ分布。「要注目種」は情報不足で、上記分類群に入る可能性が高いが決定できないもの。良好な環境に生息する指標種で注目が必要な種など、とした。「地域種」については、地理的に甲賀市付近に特徴的な分布をする種や、市内に特有な形態や遺伝の型が分布する種を選定した。市内に広く分布し親しみ易いだけでは掲載しないこととした。

#### ◇ 甲賀市レッドリスト 2022 陸産貝類 掲載種の概要

- ・ 各カテゴリー掲載種数（甲賀市レッドリスト 2007，2012，2017 と比較）は以下表のとおりであった。

表. 甲賀市レッドリスト 2022 陸産貝類 掲載種数

＼	2022	2017	2012	2007	備考
絶滅種	0	0	0	0	
絶滅危惧種	3	3	3	0	
絶滅危機増大種	2	2	2	5	
要注目種	20	18	11	11	
地域種	1	1	1	3	地域種の定義を変更
（合計種数）	26	24	17	19	

- ・ 掲載種として、絶滅危惧種ではアズキガイ、フトキセルガイモドキ、クチマガリマイマイ、絶滅危機増大種ではミヤマヒダリマキマイマイ、クチマガリスナガイ、要注目種ではヤマタニシ、ヤマクルマガイ、キセルガイモドキ、コンボウギセル、ツムガタギセル、クロイワマイマイ、ナミマイマイ、ギュリキマイマイ、コベソマイマイなど、地域種はクチベニマイマイが指定された。

#### ◇ 甲賀市レッドリスト 2017 陸産貝類からの変更とその理由

- ・ 絶滅危惧種 3 種（前回 3 種）では、アズキガイ、フトキセルガイモドキ、クチマガリマイマイの 3 種に変更はない。アズキガイは個体数が少ない年もあったが、後に回復したことが観察された。他 2 種については、現況は不明である。
- ・ 絶滅危機増大種 2 種（前回 2 種）では、ミヤマヒダリマキマイマイ、クチマガリスナガイに変更はない。両種とも土山町の山間部に生息しており、近年の状況が判明しない。
- ・ 要注目種 20 種（前回 18 種）では、前回 18 種はそのまま要注目種に留まった（ビロウドマイマイ類はケハダビロウドマイマイとして掲載した）。調査進行によって、新たに 2 種（イボイボナメクジ、カタマメマイマイ）が追加された。
- ・ 地域種 1 種（前回 1 種）のクチベニマイマイは変更ない。地域により殻の模様が異なる型が分布する。土山や信楽の神社では多くの個体を観察できることが多く、殻にピンク色（茶褐色）の帯が目立つ（色帯 0234）型がよく見つかる（信楽では色帯 0030 型も分布する）。また、市街地付近では産地が消滅する傾向にあるが、水口や土山の旧東海道沿いの寺社境内、古くからの用水路や小河川に沿った法面の竹藪などに、本種が残存する。水口町や甲南町にある丘陵地を開発した住宅地においても、公園や雑木林に隣接する民家の庭先で観察できた。市内の平野部や丘陵部では殻にピンク色の色帯が無い（色帯 0000）型が大半である。

#### ◇ 甲賀市レッドリスト 2022 陸産貝類 今後の対策・留意点

- ・ 絶滅危惧種のアズキガイ、クチマガリマイマイの生息地は水口町内の 1 地域のみであり、市街地に近い環境であることから、生息地保全に十分な配慮が必要である。
- ・ 水口町の中心市街地には現在も城跡、水田、畑地、古民家等が点在していることもあって、市街地にしては珍しく、クチベニマイマイ、ナミマイマイ、クロイワマイマイ類（チビクロイワマイマイ、ミノマイマイの型を含む）の 3 種ものマイマイ（*Euhadra*）類（大型のカタツムリ）が見られる。特にクロイワマイマイ類については、市街地で見られるというケースは少なく、水口町を代表する陸貝といっても過言ではない。しかしこれら大型のカタツムリは環境変化に対し非常に敏感で、家の改築や田畑の住居地への改変等により、いつのまにか全く見られなくなる場合がある。このような市街地で見られる「身近な生物」としての大型のカタツムリはより注目されても良い。
- ・ 地表性の種が多い陸産貝類では、特に小・中型の種の生息状況や分布状況が依然として

十分に把握されない。

- ・ 前回の改定で主な種のリストアップがなされたが、その後の追跡は十分にできていない。しかし、今回は小型の種についての整理が進み、要注目種に数多くリストアップされたので、これらの種類の実態を判明させることも、今後の改訂に関わる課題である。

#### 【参考文献】

環境省（2020）環境省レッドリスト 2020. <<http://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>>

（2020年3月27日公表、2022年9月閲覧）.

甲賀市みなくち子どもの森自然館（2007）甲賀市レッドデータブック- 守ろう!!甲賀の自然と生き物. 80pp. 甲賀市, 甲賀.

甲賀市みなくち子どもの森自然館（2018）甲賀市レッドリスト 2017

<<http://www.city.koka.lg.jp/item/11775.htm>> （2022年9月閲覧）.

滋賀県生きもの総合調査委員会（2021）滋賀県で大切にすべき野生生物-滋賀県レッドデータブック 2020. 675 pp., 滋賀県自然環境保全課, 大津.

【陸産貝類担当者：氏名（所属）】（敬称略、あいうえお順）◎：監修

大谷 ジャーメン ウィリアム（日本貝類学会）◎

金尾 滋史（滋賀県立琵琶湖博物館）